

第12回GX実行会議への意見

日本商工会議所 会頭 小林 健

1. 産業立地について

- 産業立地について、脱炭素電源の設置が立地地域の産業振興につながることが重要。半導体関連やデータセンターなど需要家企業の誘致や地元中小企業の参画を促す取組みをぜひお願いしたい。

2. GX産業構造について

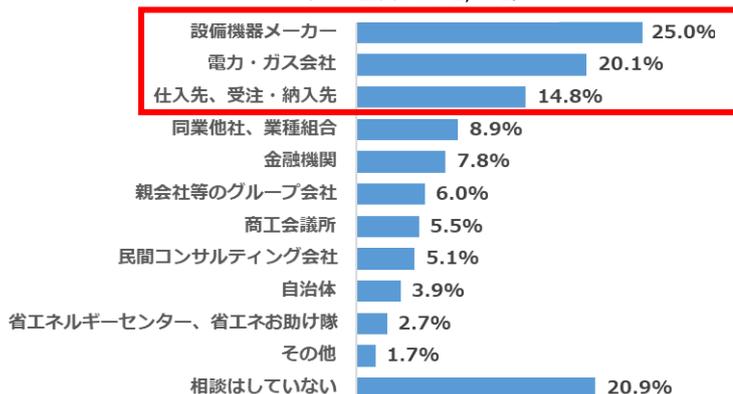
- 商工会議所の調査では、中小企業における脱炭素化のハードルは、半数以上（56.5%）が「マンパワー・ノウハウが不足」と回答している。また、脱炭素化の相談先は、「設備メーカー」が最も多く、「電力・ガス会社」「取引先」が続く。
- 専門家派遣など政府による支援とともに、こうした日頃から中小企業と関係を持つ大手企業による脱炭素分野での連携・協力を後押しするような仕組みが必要。

【脱炭素に取り組むハードルとなった・なっている、なり得るもの】（複数回答、n=2,139）



出典：日商・東商「中小企業の省エネ・脱炭素に関する実態調査」

【脱炭素に取り組む際の相談先】（複数回答、n=1,601）

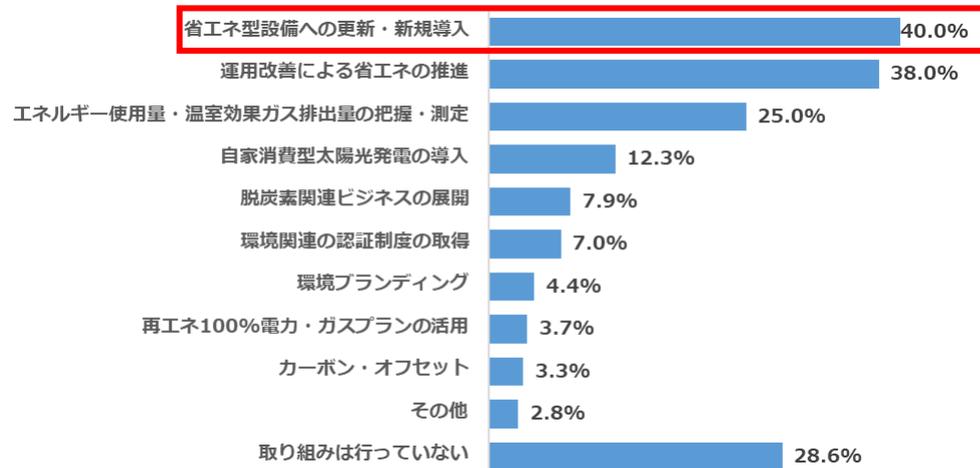


出典：日商・東商「中小企業の省エネ・脱炭素に関する実態調査」

3. 中小企業の省エネ投資の促進について

- 中小企業の脱炭素は、コスト削減にも繋がる「省エネ」から始めるべき。 商工会議所の調査でも脱炭素の取組内容は「省エネ型設備の更新・導入」が最も多い。できるだけ多くの中小企業が取組めるよう、ぜひ大胆な予算措置をお願いしたい。

【実施している脱炭素に関する取り組み】（複数回答、n=2,139）



出典：日商・東商「中小企業の省エネ・脱炭素に関する実態調査」

4. 次期エネルギー基本計画と原子力について

- 現在、エネルギー基本計画の見直し議論が行われているが、G X推進はエネルギーの安定・安価な供給が大前提。 カギを握るのは原発。 次期基本計画においても原子力政策の推進をしっかりと打ち出し、安全性確保のうえでの再稼働推進をお願いしたい。

以上